

特集 花きのオリジナル品種育成による産地活性化

1 本県における花きの新品種育成の現状と今後の展開

本県は、伝統や自然条件、立地条件に恵まれ、全国でも有数の花き生産県であった。しかし、景気低迷による需要の減退、輸入切り花の増加、種苗費を含む生産コストの高騰などにより、花き栽培面積は減少の一途をたどり、1990年の1,174haをピークに2006年には431haまで減少している。このような状況下においては、限られた需要に対する産地間競争の激化が予想され、オリジナル品種による他産地との差別化が生き残り戦略の重要な方策の一つになると考えられる。

県ではオリジナル品種の育成・導入を推進している。当センターではその一環として、兵庫県花卉協会と協働でキクの交配育種やスイートピーの交配育種、また、キク、ハボタン、スイートピーを対象にイオンビームを利用した突然変異誘発によるオリジナル品種の育成に取り組んでいる。

一方、生産者によるオリジナル品種の育成も活発化しており、2003年には3品種であったオリジナル品種が2007年には16品種まで増加している。なかでも淡路ストック研究会（淡路市）は活発にオリジナル品種の選抜、育成に取り組んでいる。当センターでも2009年度から研究施設を開放し、研究員のサポートのもと、組織培養を取り入れた育種手法を活用できることとした。この取組により、生産者育種によるオリジナル品種が加速的に増加することが期待できる。

産地のブランド化に大きく寄与するオリジナル品種は、産地間競争を打ち勝つための重要なアイテムとして大いに期待されている。

小山 佳彦（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 2424）

高電圧により作られた高速なイオン（各種の原子核）の流れ

2 スイートピーのオリジナル品種育成への取り組み

ねらいと成果

淡路オリジナル品種育成を目指し、優良品種を用いた交配育種とイオンビーム育種を検討した。

その結果、交配育種では白色花の優良系統を得た。イオンビームの種子照射では鮮桃色品種から赤色、濃青色品種からクリーム色や白色花の変異株を得た。

内容

- 1 交配育種 2005年に「ステラ」（淡黄色）と「ミニー」（濃青色）を交配し、その後代1,106株から34系統を選抜した。2008年にこれらのなかで、育成した20株すべてが白色で、比較的ボリュームのある1系統を優良系統として選抜した。
- 2 イオンビーム育種 2006年に「ミセス・ダグラス・マッカーサー」（鮮桃色、以下「マッカーサー」）と「ミニー」の乾燥種子各50粒にイオンビ

ームを60～100Gy照射した。その後自殖で後代を育成し、2008年の3代目で「マッカーサー」の100Gy区で赤色花、「ミニー」の60、80、100Gy区で白色花、100Gy区で淡青色花を得た。また60Gy区の白色花の中にクリーム色花の変異が生じた。花色以外では半わい性株等がみられた。

今後の方針

花色のほか品質や収量、日持ち等の安定性を確認する。交配育種で得られた系統については、育種素材として育種に取り組む生産者に紹介・提供する。

岩井 豊通（淡路農技セ 農業部）

（問い合わせ先 電話：0799 - 42 - 4881）

物質が吸収した放射線のエネルギーの量を示す単位